

「保育者としての視点」につながる豊かな保育記述力を育む授業の検討（2）：  
テキストマイニングによる「保育者のための文章表現」授業アンケート自由記述回答の解析

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2022-03-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長島, 万里子, 向笠, 京子, Nagashima, Mariko, Mukasa, Kyoko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://senzoku.repo.nii.ac.jp/records/2222">https://senzoku.repo.nii.ac.jp/records/2222</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 「保育者としての視点」につながる 豊かな保育記述力を育む授業の検討 (2)

—テキストマイニングによる「保育者のための文章表現」授業アンケート  
自由記述回答の解析—

The Study on Students' Writing Skills toward the point of view as Childcare (2)  
— Analysis of free description data in 'Writing skills for ECEC students' using text mining methods —

長島万里子、向笠京子  
Nagashima Mariko, Mukasa Kyoko

## 1 研究背景

女性の社会進出により、保育に関しては保育所の量的な不足が問題になっていたが、「幼児期に受けた質の良い教育・保育がその後の人生を豊かにする (OECD2001:7)」との提言がなされた「Starting Strong (人生の始まりこそ力強く)」の影響を受け、2000年代に入り次第にその質への議論や研究が行われるようになってきた。そして保育者養成校においては、質の高い保育を提供する専門職としての保育者を育てる実践的な授業がより強く求められるようになったといえる。

筆者らは将来において質の高い保育を提供する保育者となる人材の卵としての保育学生を育てるにあたり、保育者の視点につながりうるものの一つとしての「子どもの育ちを的確に記録し、その姿を丁寧に読み解いて記述する能力」を育む必要があることに着目している。その理由は、前回の研究(『「保育者としての視点」につながる豊かな保育記述力を育む授業の検討 (1) (井上ほか 2021:81-95)』)で述べたので、再び本稿で詳細には触れないが、岡花ほか(2009:229-237)が「保育実践の記述によって保育者自身が抱える問題意識がより明確となり、その子(対象児)理解の枠組みが意識化される」と、同様に青木(2016:159-180)が「保育記録には保育者の保育観や乳幼児理解が反映されるものである」と指摘しているように、「保育者にとって保育を記録することは子どもを理解することである」と考えているからにほかならない。

これらの考え方から、筆者らは「子どもの育ちを的確に記録し、その姿を丁寧に読み解いて記述する能力」を「保育記述力(井上ほか 2021:81-95)」と名付け、それを育む授業のあり方を模索している。そのようななかで、筆者らの所属する保育者養成校では、保育者を志す学生に必要な「読む力・要約する力、文章を書く力」などの総合的な国語力の向上を目指し、2019年度より「保育者のための文章表現」という名称の授業を新たに導入している。「保育者のための文章表現」と「実習指導」は同じ教員が受け持ち、一人ひとりの学生の授業理解度を把握し、個別対応ができる体制をとっている。授業

概要 (表1) と各授業回の内容 (表2) を次に示す。

表1 「保育者のための文章表現」授業概要

<p>科目名: 保育者のための文章表現</p> <p>【主題】                  保育者は「書く」ことによって、子どもの姿や思い、自分の援助や意図を振り返りながら、保育を理解する。現場においては、保護者への連絡帳、園だより、指導計画の立案、担当クラスの保育記録、研修会参加後のレポートなど、文章を書く機会も多い。すなわち、保育者にとって「文章を書く」という営みは、その仕事の中核をなすものである。この授業では、保育者に求められる実践的な「文章で表現する」力を習得することを目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育現場で使用する保育用語や漢字を正しく理解し、活用できる力を習得する</li> <li>・多様な文章に触れ、表現する基礎となる語彙を増やし、正しい文章構成を理解する</li> <li>・見たこと、感じたこと、考えたことを適切な文章で表現できる力を習得する</li> <li>・お礼状やプロフィール、履歴書等の社会人に求められる諸書類の作成の方法を習得する</li> <li>・保育記録や指導計画の書式を理解し、作成方法の基礎を理解する</li> </ul> <p>【授業概要】                  この授業では保育者を志す学生が必要な国語力を身に付けることができるよう、授業回ごとにテーマを決める。テキストと配布プリントを使って「読む力、要約する力、文章を書く力」の育成に取り組む時間のほか、以下の時間を設定し、総合的な国語力の向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字テストを毎回行うことによって、保育者として必要な漢字の知識が定着するようにする</li> <li>・読書の時間を毎回設けることによって、幅広い内容の文章に触れクラスメイトと共有できるようにする</li> <li>・保育用語のテストを定期的に行うことによって、保育者として必要な用語を活用できるようにする</li> </ul>
---

表2 「保育者のための文章表現」各授業回の内容

回	前期授業内容	(実習)	回	後期授業内容	(実習)
1	実習生ガイダンス、プロフィールの書き方		1	オリエンテーションの記録方法、基礎実習の振り返り	
2	保育用語の基礎、実習生プロフィールの作成		2	子どもの姿をとらえ記録する(2)生活の場面	
3	保育環境構成の書き方		3	実習園情報の書き方、事例と考察の書き方 レベル1:VTR	コース別
4	レポートの書き方		4	お礼状(封書)を作成する(1)幼稚園	コース別
5	基礎実習の記録の書き方、実習中のマナー		5	日々の目標の立て方、事例と考察の書き方 レベル2	コース別
6	生活をとらえ時系列で記録する、基礎実習記録のファイルの作成	基礎実習	6	教育実習 I の自己評価、振り返り、教育実習 I の経験の共有	
7	お礼状(はがき)を作成する		7	乳児の遊び、生活場面を記録する、教育実習 I の学びの整理	
8	子どもの姿をとらえ記録する(1)遊びの場面、体験実習の記録の振り返り		8	子どもの姿をとらえ記録する(3)一日の保育のなかで:VTR	コース別
9	子どもの発達をとらえ分析する(1)遊びの場面		9	保育者の援助、意図を理解し記録する 生活の場面 :VTR	コース別
10	時系列の記録の書き方(1)保育者の援助を理解し記録する 遊びの場面:VTR		10	保育所実習における事例と考察の書き方:VTR	コース別
11	時系列の記録の書き方(2)保育者の意図を理解し記録する 遊びの場面:VTR		11	子どもの発達をとらえ分析する(2)生活の場面、教育実習日誌を使って学びの共有	
12	お礼状(暑中見舞い)を作成する		12	部分実習指導案の基礎(4)生活の場面、事例と考察の書き方 レベル3:VTR	
13	部分実習指導案の基礎(1)絵本をテーマに		13	部分実習指導案の基礎(5)乳児の活動	
14	部分実習指導案の基礎(2)絵本を書く		14	お礼状(封書)を作成する(2)保育所	
15	部分実習指導案の基礎(3)添削・模擬保育		15	履歴書の書き方	実習実習

この授業では、「保育者としての視点」を養い豊かな保育記述力を育むための効果的な内容や方法を検討するため、2019年から2020年にかけて、学生の実習日誌記述に関する困難感を把握し、「保育者のための文章表現授業」の効果を明らかにするために実習日誌に関するアンケート及び「保育者のための文章表現授業」に関するアンケートを実施した。その結果は前述の研究結果(井上ほか2021:81-95)にまとめた。そこでは、以下の3点の知見が導き出された(井上ほか2021:81-95)。

①「保育者のための文章表現」授業において、養成校教員は実習日誌の記述に関して、「深い考察の仕方」「適切な分量」「事例の選び方、詳細な書き方」「書きたいことを文章にあらわす方法」「日々の目標設定の仕方」「時系列の記録の方法」「保育者の援助の意図を読み取る方法」について特に時間をかけて扱い、学生の理解度や定着度を測りながら授業をすすめていく必要があること。

②「保育者のための文章表現」授業において、養成校教員は「子どもの姿や子どものしていた行動を読み取り、書き留めること」「子どもの興味・関心を捉えて書くこと」「保育者の姿を思い出して書くこと」「保育者の援助の意図を読み取ること」「適切な分量を知ること」「事例・考察を書くこと」に関しては幼稚園と保育所という施設の保育のあり方の違いや、それぞれの施設における実習日誌記述の視点の違いを、より丁寧に説明する必要があること。そして、それぞれの実習の前にこれらすべての項目の

演習を実施するようにすること。

③「保育者のための文章表現」授業において、小クラスによる授業を導入する際は、入学時点での成績による能力別クラスではなく、演習の質・量が異なるクラスを準備しておき、学生自身に保育者志望度や保育に関する授業経験の有無を基準に選択させるようにすること。そして1回目の実習（幼稚園）を終えた後には実習に対する思いに差が出てくる場合があるため、自分の課題に合わせたクラス変更を相談できる場を設定する必要があること。

前述の研究では、以上のように学生の実習日誌記述に対する困難感を把握し、保育記述力を高める授業内容・方法への改善案を得ることができた。しかしながら、授業効果へ与える他の要因をさらに検討する余地があることに課題が残っていた（井上ほか 2021：81-95）。具体的には、前回の研究（井上ほか 2021：81-95）においては学生の自由記述部分について、主観的な手法で意見の数を整理したものであったため授業の効果と実習（幼稚園／保育所）との関連を客観的に解明するような分析まではできなかった点に限界があった。そこで、第1回目の実習（幼稚園）終了後と第2回目の実習（保育所）後の学生の変化をより鮮明に浮かび上がらせ、学生の保育記述力をより豊かに、効果的に育む「保育者のための文章表現」授業の内容を充実させるために、前回の研究（井上ほか 2021：81-95）のデータを用い、計数のみの分析ではなく、テキストマイニングの手法を用いて分析することによって考察することを試みた。

授業評価の自由記述回答の分析に関して、先行研究では自由記述による文書形式のデータを定量的に分析するために、テキストマイニングの手法を使ったものが多く取り扱われている。

例えば、短期大学・大学における授業評価アンケートの分析の先行研究としては、菊池（2018：135-146）が保育者養成校における学外授業の効果を分析している。受講生述べ181名の「スポーツとエクササイズ」授業における授業評価アンケートの自由記述部分をKH Coderによる頻出語の整理とともに「自然」「健康・体力」に関連した共起ネットワークの分析から検討しているものである。そのほか、岩森（2020：95-103）は短期大学における「調理理論」の授業受講者78名を対象に授業評価アンケートを実施し、その自由記述回答結果をKH Coderにより分析し頻出語整理、階層的クラスター分析、共起ネットワーク分析からの考察を加えている。また、石崎（2021：245-261）は、4年制大学における留学生対象日本語オンライン授業評価アンケートの自由記述の部分のテキストマイニング分析を行い、選択回答の定量的分析との関連付けを図っている。

本研究では以上の先行研究における分析手法を参考にすることで、学生の実態を前回の研究（井上ほか 2021：81-95）で使用した自由記述を類似する内容ごとに主観的に整理し、計数によって分析した方法とは異なり、客観的手法で調べることによって、授業の効果と実習（幼稚園／保育所）との関連を解明するという残された課題を解決し、「保育者としての視点」につながる豊かな保育記述力を育む授業のあり方を検討することを目的とする。

## 2 研究目的

本研究では、「『保育者としての視点』につながる豊かな保育記述力を育む授業の検討 (1)」（井上ほか

2021:81-95)」の結果を検証するとともに「数値の影に隠れている重要な情報源」である質的な言語データ(テキスト)の中に埋もれている情報を掘り起こし、活用するため、テキストマイニングによる授業アンケート自由記述回答の解析を行う。具体的なリサーチクエスションは以下の2点である。

①保育学生が、1回目実習(幼稚園)、第2回目実習(保育所)における日誌作成時に「保育者のための文章表現」授業の内容で役に立ったこと、もっと教えて欲しかったことは何か。

②保育学生が、1回目の実習(幼稚園)終了後と2回目の実習(保育所)終了後で「保育者のための文章表現」授業に対して役に立ったこと、もっと教えて欲しかったことに違いがあるのか。

①に関しては、前回の研究(井上ほか2021:81-95)でも自由記述を整理し考察を加えたが、筆者らの主観で分類したことで、分析に限界があった。そこで今回は、「保育者のための文章表現」授業のどの内容が1回目(幼稚園)・2回目(保育所)それぞれの実習の日誌作成時に役立ち、求められていたのかをKH Coderによるテキストマイニングを行うことで客観性を担保しつつ学生の思いを要約し、その構成要因を明らかにする。

②に関しては、前回の研究(井上ほか2021:81-95)で「実習経験を重ねるにつれ日誌記述への困難感が軽減するわけではなかった」ことが明らかになったことを受け、ではどのような点に1回目実習(幼稚園)と2回目実習(保育所)の違いがあるのかをテキストマイニング解析結果からあらためて比較・検討する。

以上の2点を明らかにすることによって具体的な授業の改善点を検証し、「保育者としての視点」につながる豊かな保育記述力を育む授業のあり方を検討する。

### 3 研究方法

#### 3-1 調査対象と手続き

アンケートは短期大学1年生、262名に対し実施した(井上ほか2021:81-95)。第1回のアンケートは幼稚園における実習終了後の2019年11月に紙面により実施し、第2回は保育所における実習終了後の2020年6月にGoogleフォームにより実施した。本研究では前回の研究(井上ほか2021:81-95)では明らかにしきれなかった、「保育者のための文章表現」授業と第1回目実習(幼稚園)・第2回目実習(保育所)の関連をより鮮明に浮かび上がらせるという目的のために、実習日誌に関するアンケートの内容のうち日誌作成についての自由記述を分析する。具体的には設問27番、「日誌作成について、『保育者のための文章表現』授業内容でどのようなことが役立ったか、または、もっと教えて欲しかったことがあれば記入してください」と各実習終了後に尋ねたものである。

本研究では、アンケートに回答した学生のうち、アンケート内容を研究に活用することに同意した126名(回答率48.1%)のデータをもとに分析した。なお、対象学生は、全員女性である。

#### 3-2 研究における倫理的配慮

本調査の目的を書面で説明した。アンケートに回答することによって個人が特定されるなどの不利益が生じないこと、プライバシーの保護には最善の注意を払うことをアンケート実施の際に依頼文書で説

明し、同意を得たもののみを調査対象とした。学生への説明書には「アンケートの内容によって成績が変わることは一切ない」ことを明確に記載した。分析に際しては、統計的に処理し、個人情報の識別ができないように、記載内容は個人情報とひも付けずに管理することを厳守した。

## 4 分析の方法

自由記述による文書形式のデータを定量的に分析するために、テキストマイニングの手法を使ったものが多く取り扱われている。特に、授業評価の自由記述の部分の分析に多く使用されている。

本研究では前述の菊池 (2018 : 135-146)、岩森 (2020 : 95-103)、石崎 (2021 : 245-261) の先行研究を参考にし、アンケートの自由記述の回答として得られたデータをテキストファイル化し、それを KH Coder 3 を用いて分析した。

また、表記の揺れについて、原文を確認し、統一したほうがよいと思われるものについては前処理を実行した。統一前と統一後の語の一覧は表3の通りである。

表3 回答の表記の揺れの統一表

統一前	統一後
書き方/書く/書ける	書き方
役に立つ/役立つ/役だつ/役	役に立つ
毎日/日々	毎日
分かる/理解	分かる
削る/省く	削る
姿/様子	姿
文/文章	文章
言葉/言葉遣い/言い回し/語彙	言葉
コツ/ポイント	コツ
映像/ビデオ/動画	映像
子ども/子/子供	子ども
もっと/もう少し	もっと

## 5 結果と考察

126名の学生の第1回目実習(幼稚園)、第2回目実習(保育所)後のアンケートにおける設問のうち「日誌作成について、授業内容でどのようなことが役立ったか、または、もっと教えて欲しかったことがあれば記入してください」に対する自由記述の回答を、実習回ごとに分析した。なお、分析対象となった学生の2回目(保育所)実習後アンケート時、在籍クラスはAdvanceが46名、Standardが59名、Basicが20名であった。授業内容は習熟度別に設定しているが、本人の希望に沿ったクラス分けになっていることを付記しておく。

五

### 5-1 第1回目実習(幼稚園)終了後アンケート結果の分析

#### 5-1-1 第1回目実習(幼稚園)終了後アンケート：記述の文字数

第1回目実習(幼稚園)後のアンケートにおける設問のうち「日誌作成について、授業内容でどのようなことが役立ったか、または、もっと教えて欲しかったことがあれば記入してください」に対する自



由記述の回答は無回答を除き、記述があったのは99名であった。自由記述量は4字（事例考察）から100字（目標を事前に設定していたことでスムーズに目標設定ができた。毎日同じことを繰り返す中で10日間同じ場面を書くときのレポートリーがなくなっていく。自分の日誌の内容が書いているのかほとんどわからなくなる。）であった。文章の単純集計の結果、114文が確認され、総抽出語数（分析対象ファイルに含まれているすべての語の延べ数、樋口2020：29）は1544語、助詞・助動詞を除き使用した語数は689語、異なり語数（何種類の語が含まれているかを示す数、樋口2020：29）は286語、使用した語数は197語であった。

### 5-1-2 第1回目実習（幼稚園）終了後アンケート：記述の文字数記述の頻出語

第1回実習（幼稚園）後のアンケートにおける設問のうち「日誌作成について、授業内容でどのようなことが役立ったか、または、もっと教えて欲しかったことがあれば記入してください」に対する自由記述の回答の抽出語を頻出順に整理したものを表4に示す。

表4 第1回実習（幼稚園）後の自由記述頻出語

順位	抽出語	出現回数
1	書き方	72
2	考察	35
2	事例	35
2	役に立つ	35
3	日誌	22
4	ない	21
5	する	19
6	教える	14
6	目標	14
7	プリント	13
8	例	12
9	もっと	10
9	わかる	10
9	実習	10
9	毎日	10

頻出語のうち、出現回数が30回を超えている語は「書き方」(72回)「考察」(35回)「事例」(35回)「役に立つ」(35回)であった。「書き方」についての語の使われ方を原文でみると「事例・考察の書き方が役立った」「事例や考察の書き方のポイントがわかりやすかったので、もっとやりたかったです」「書き方が多少なりとも役立った」「部分実習の書き方がわかった」「時系列の書き方が役立った」「日誌の書き方をたくさんやってくれたので役にたった」などがあつた。なかでも「考察」及び「事例」の書き方が役に立ったという記述が多かつた。

六

### 5-1-3 第1回目実習（幼稚園）終了後アンケート：共起ネットワークによる分析

抽出語の出現頻度と抽出語同士の関連性を要約提示する目的において、共起ネットワーク図の描画を行った。共起ネットワークとは、出現パターンの似通つた語、すなわち抽出語間の共起性の強さを示すものである。抽出した語の頻度をバブル（円）の大きさで表し、語の近さがバブルの近さをなつて表されている。また、バブルとバブルを結ぶ線の太さは抽出語同士の関係性を表しており、太いほど共起関

係が強い。分析にあたっては、出現数による語の取捨選択に関して最小出現数を4と設定し、描画する共起関係は上位60位に設定した。得られた結果は図1に示す。

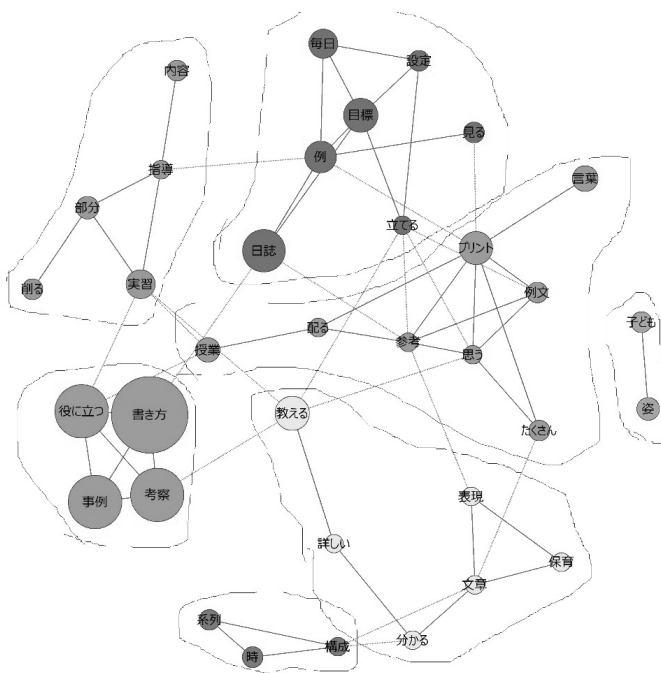


図1 第1回目実習（幼稚園）終了後アンケート自由記述から得られた共起ネットワーク

図1より、多くの学生が「書き方」「事例」「考察」「役に立つ」という語について感想を述べていることが明らかである。共起関係の強さを線の太さからみると、「事例-考察-書き方-役に立つ」から、事例考察の書き方に役に立ったこと、「日記-毎日-目標-設定-例」から、日記作成において、毎日の目標設定のために例があったことが役に立ったり、もっと教えて欲しかったりすることであることが分かる。また「部分-実習-指導-内容」、「言葉-プリント-例文-参考」の共起線からは、部分実習指導の内容や、日記作成のための言葉の例文プリントが参考になっていることが多く記述されていることがうかがわれる。

#### 5-1-4 第1回目実習（幼稚園）終了後アンケート：関連語検索からの今後の授業への要望について

続いて、第1回目の実習（幼稚園）終了後に学生がどのような授業を望んでいたかの詳細を把握するため、「もっと」「～ほしい」という語を関連語として指定し、共起ネットワーク分析を行った。描かれた図は図2の通りである。

図2をみると、「事例-考察-詳しい-教える-分かる」や「毎日-場面-切り取る-見せる」に強い共起が見られた。このことから、第1回目の実習（幼稚園）後には、日記作成について、「保育者のための文章表現」で事例・考察について、分かるように詳しく教えて欲しいこと、毎日、保育のどの場面を切り取って日記に書いて見せるのか教えて欲しいことが浮かび上がってきた。



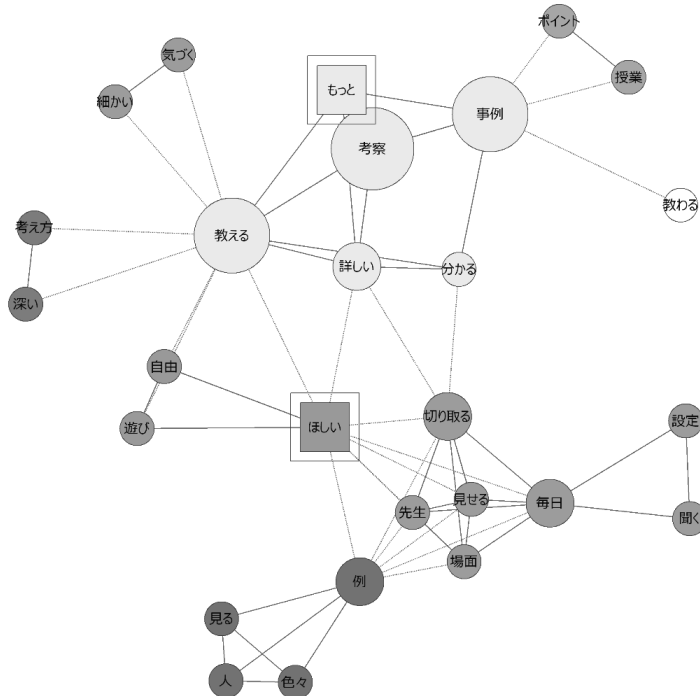


図2 第1回目実習(幼稚園)終了後アンケート：関連語検索からの今後の授業への要望について

## 5-2 第2回目実習(保育所)終了後アンケート結果の分析

### 5-2-1 第2回目実習(保育所)終了後アンケート：記述の文字数

次に、第2回目の実習(保育所)後のアンケートにおける設問についての分析を行った。「日誌作成について、授業内容でどのようなことが役立ったか、または、もっと教えて欲しかったことがあれば記入してください」に対する自由記述回答は無回答を除き、記述があったのは113名であった。自由記述量は4字(見本など/言葉回し)から194字(事例と考察の例を一つだけでなく何個か上げてくださったので、どのように書くといいのか分かりやすかった。時系列の例が非常に細かかったので、その例を基準に自分の日誌を作成したら、平均8時間以上時間がかかってしまった。2週間これを続けると、睡眠不足で体調を崩しそうになるので、ある程度の時間で日誌を完成させ、睡眠時間を確保できるように、日誌はどこまで細かく書くべきなのか、細かさの加減を知りたい。)であった。文章の単純集計の結果、135文が確認され、総抽出語数(分析対象ファイルに含まれているすべての語の延べ数、樋口2020:29)は2186語、助詞・助動詞を除き使用した語数は984語、異なり語数(何種類の語が含まれているかを示す数、樋口2020:29)は363語、使用した語数は253語であった。

八

### 5-2-2 第2回目実習(保育所)終了後アンケート：記述の文字数記述の頻出語

第2回目の実習(保育所)後のアンケートにおける設問のうち「日誌作成について、授業内容でどのようなことが役立ったか、または、もっと教えて欲しかったことがあれば記入してください」に対する自由記述回答の抽出語を頻出順に整理したものを表5に示す。

表5 第2回実習（保育所）後の自由記述頻出語

順位	抽出語	出現回数
1	書き方	111
2	考察	63
3	事例	60
4	日誌	30
4	役に立つ	30
5	教える	24
6	授業	17
7	保育	14
8	実習	13
8	例	13
9	言葉	11
9	分かる	11
9	練習	11
10	詳しい	10

頻出語のうち、出現回数が30回を超えている語は「書き方」(111回)「考察」(63回)「事例」(60回)「日誌」(30回)「役に立つ」(30回)であった。出現回数に多少の違いはあるが、出現回数上位5語は、第1回（幼稚園）後の自由記述による頻出語（表4）と同じ語が出現していることがわかる。一方で、第1回目の実習（幼稚園）終了後の頻出語（表4）にはない「保育」や「言葉」という記述が第2回目の実習（保育所）終了後には頻出していることがわかった。

出現回数が最も多い「書き方」についての語の使われ方を原文でみると「事例考察の書き方、エピソード記録の書き方、時系列の綺麗な書き方が役に立った」「事例考察を書く練習を授業で行ったため、書きやすかった。」「部分実習について指導案書く練習が役立ちました!」「事例と考察の書き方はもっと学びたい簡潔にかけけるバージョンや深く捉えられるようになる書き方など」「環境構成の書き方が役立った」など、第1回目実習（幼稚園）の終了後と似た使われ方をしており「事例」「考察」の書き方が役に立ったというものが多かったが、環境構成やエピソード記録、時系列、きれいな書き方、簡潔な書き方など、日誌作成のより詳細な部分や書き方のバリエーションについても触れられていた。

### 5-2-3 第2回目実習（保育所）終了後アンケート：共起ネットワークによる分析

第2回目実習（保育所）終了後の自由記述の回答の共起ネットワークによる分析結果を次に示す。分析にあたっては、出現数による語の取捨選択に関して最小出現数を4と設定し、描画する共起関係は上位60位に設定した。得られた結果は図3の通りである。

図3をみると、第1回目実習（幼稚園）終了後の図1と同様に「事例-考察-書き方-役に立つ」の語を中心として「日誌-教える」を合わせた語群に強い共起性が確認された。このことから、第2回目の実習（保育所）終了後も、自由記述のなかで、事例・考察の書き方が日誌のなかで役に立ったことに関する記述が多かったことがわかる。また「保育-環境-内容-構成-配慮-子ども-姿」という共起性も強く出ている。このことから、第2回の実習（保育所）終了後には育環境や保育内容、保育への配慮、子どもの姿に関しての記述が多くみられ、学生に役立っていたり、学生がもっと教えて欲しいと思っていたりすることがわかる。

九

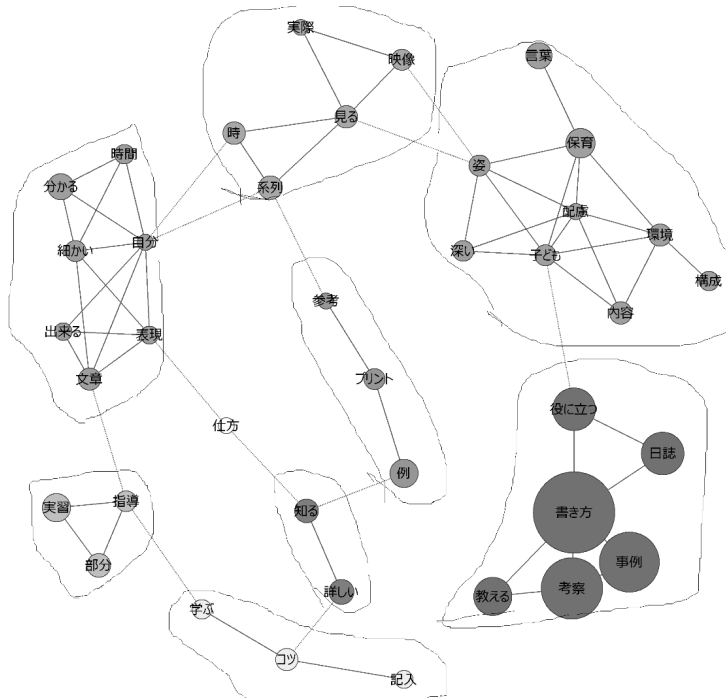


図3 第2回目実習（保育所）終了後アンケート自由記述から得られた共起ネットワーク

#### 5-2-4 第2回目実習（保育所）終了後アンケート：関連語検索からの今後の授業への要望について

第2回実習（保育所）終了後、学生が今後の授業についてどのように希望しているのかを探るため、関連語検索を行った。「もっと」もしくは「～ほしい」という語に関連する記述の共起ネットワークを次の図4に示す。

図4から分かるように、語が離れており、回答した学生ごとに様々な要望があることがわかる。「事例・考察」に関するものが最も多く、「見本-たくさん-ほしい」「子ども-姿」「表現-仕方」「目標-立てる」「苦手-対策-教える」「早い-時間」「簡潔-捉える-バージョン」などの語群から、見本がたくさんほしいということ、子どもの姿についての書き方や、日誌での表現の仕方、目標の立て方を知りたいこと、時間を早く書くこと、簡潔に捉えるバージョンについて知りたいことなどが浮かび上がってきた。



②について、①で明らかになったことから考察すると、保育学生の第1回目(幼稚園)と第2回目(保育所)の実習終了後を比較する際、「保育者のための文章表現」授業に対して役に立ったこと、もっと教えて欲しかったことに「事例・考察」に関するものが最も多いという共通点があるものの、全体には違いがみられたといえる。第1回目(幼稚園)の実習終了後には保育学生自身の日誌の書き方に関連する回答(事例・考察の書き方、プリント、実習目標の立て方)が多かったのに対し、第2回の実習(保育所)終了後には保育そのものに対する回答(保育環境構成、保育内容、子どもへの配慮)が増えている。さらに、授業に対する要望を分析した結果、第2回の実習(保育所)終了後には一段階レベルの高い保育記述力についての要望が強くなっていることがわかった。

以上、本研究では保育学生の「保育者のための文章表現」授業に対する思いを実習回数ごとに詳細に探った。前回の研究(井上ほか2021:81-95)においても「事例・考察の書き方」への学生からの要望の多さについて整理したが、本研究にて客観性のある分析を行った結果、第1回の実習(幼稚園)終了後と第2回の実習(保育所)後の学生の変化をより鮮明に浮かび上がらせることができた。これらの結果をもとに、学生の保育記述力をより豊かに、効果的に育む「保育者のための文章表現」授業の内容を充実させたい。具体的な授業の工夫案に、次の3点をあげる。

①「事例・考察の書き方」についての演習を第1回目(幼稚園)、2回目(保育所)の実習ごとに時間をとり丁寧に触れる。

②第1回の実習(幼稚園)前には特に「日誌に書く部分の選定の仕方」「実習目標の書き方」「部分実習指導の書き方」に関する内容を充実させる。「保育に関する言葉、言い回しなどに関するプリント」を毎年更新し配布する。

③第2回の実習(保育所)前には「日誌における保育に関する表現の仕方」に関して、「保育環境構成」「保育内容」「子どもの姿」「子どもへの配慮」など、保育そのものへの理解を深めつつその書き方を学べるように授業内容を充実させる。そのうえで日誌を「早く書く工夫」や「簡潔に捉えるコツ」を具体的に教える。そのほか、第1回の実習(幼稚園)日誌や授業プリントをもとに学生が個々にもつ苦手な部分への対応を行う。

本研究において、前回の研究(井上ほか2021:81-95)で残された課題であった客観性を担保した授業の効果と実習(幼稚園及び保育所)との関連の解明については解決した。しかしながら、単年度のアンケート分析であることから、今後も同様の調査・分析を継続して本研究における結果を検証する必要がある。

筆者らは「子どもの育ちを的確に記録し、その姿を丁寧に読み解いて記述する能力」である保育記述力を育む授業のあり方を模索し、「保育者のための文章表現」の授業において、より良い授業のために、学生が卒業後に保育者となる姿を見据えて、授業時間に制限があるなかで膨らませたい、伝えたい、実施したい内容を、様々な試みを取り入れて実施してきた。前回の研究(井上ほか2021:81-95)に続き本研究において学生の授業に対する評価や要望を把握したことで道標ができた筆者らは、今後も「子どもの育ちを的確に記録し、その姿を丁寧に読み解いて記述する能力」をより効果的に育む、さらに魅力ある授業づくりを目指していきたい。

参考文献一覧

- 青木一永 2016 「保育実践現場における 乳幼児理解の向上に関する研究 —エピソード記述への取り組みを通して—」『大阪総合保育大学紀要』(10) 159-180
- 井上真理子・向笠京子・長島万里子・高橋優子・伊藤路香・上田よう子 2021 「『保育者としての視点』につながる豊かな保育記述力を育む授業の検討：『実習日誌』及び『保育者のための文章表現授業』アンケートからの分析」『洗足論叢』(49) 81-95
- 石崎俊子 2021 「日本語オンライン授業の実践と授業評価アンケートによる分析：名古屋大学国際言語センターにおける取り組み」『名古屋大学人文学研究論集』(4) 245-261
- 岩森三千代 2020 「KH Coder を活用した自由記述による授業評価アンケートの解析と客観化の試み」『新潟青陵大学短期大学部研究報告』(50) 95-103
- 岡花一郎・杉村伸一郎・財満由美子・松本信吾・林よし恵・上松由美子・落合さゆり・山元隆春 2009 「エピソード記述」による保育実践の省察 -- 保育の質を高めるための実践記録と保育カンファレンスの検討」『広島大学学部・附属学校共同研究紀要』(37) 229-237
- 菊池理恵 2018 「保育者養成校における学外授業の効果について (2)：健康・自然に着目して」『柳城こども学研究』(1) 135-146
- 樋口耕一 2020 「KH Coder 3 リファレンス・マニュアル」  
f/khcoder3/khcoder\_manual.pdf (2021 年 8 月 1 日取得、参照)
- OECD (2001) Starting Strong Early Childhood Education and Care  
[https://read.oecd-ilibrary.org/education/starting-strong\\_9789264192829-en#page3](https://read.oecd-ilibrary.org/education/starting-strong_9789264192829-en#page3) (2021 年 8 月 1 日参照)